

## インフルエンザワクチン

この秋は、「したことがないが、インフルエンザのワクチンを打ってくれないか」というひとが多くいた。なぜか？「じやら、コロナと関係があるようだ。」

初めのころは、「ひどいアレルギー体質でなければ注射します」と、ワッシーもおおらかなものだった。が、割り当てられた在庫のワクチンが底を尽きそうになった。このままでは、毎年ワクチン接種をしている患者さんの分がなくなる。

インフルエンザにも、副作用がないわけではない。稀に、命まれに関わるアナフィラキシーショックや両方の手足の力が入らなくなるギラン・バレー症候群が起きることもある。それほど重症でなくても、発熱や頭痛がしたり、注射部位が腫れたりする。

だが、ワクチンには、感染や重症化の予防効果が50%近くはあるのだ。希望するひとには、ワクチンを打ってあげたい。がない袖は振れなご。

でも、ワクチンがないからと、そう心配しなくて良さそうだ。今シーズンは、日本

のインフルエンザの流行は抑えられるかもしれないという。

コロナが怖くて、マスクや手洗いの励行、ソーシャルディスタンスの確保が守られ、インフルエンザの流行に歯止めがかかる可能性が高い。「今年は、インフルエンザは大丈夫。無理してワクチンを注射しなくて良いかも」という意見もある。

それでも、患者さんの心配は尽きない。「もしもインフルエンザになって熱がでて、医者みがコロナを疑って診てくれないかも。どうしてもワクチンを」というひとがいた。

一般のひとは、医師法を知らない。医者いは、正当な理由なく診療を拒否することは許されないのだ。何らかの理由で直接診療できない場合には、ほかの診療機関を紹介してくれる。と話しても、ワクチンにこだわるとはこだわらる。あー。

(石黒修三||いし黒ろくクリニック・脳神経

外科専門医…12/8 北國新聞掲載)